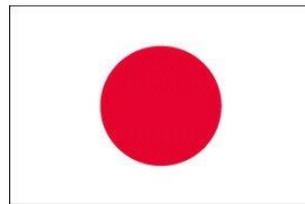


令和元年度 青少年赤十字海外支援事業

バヌアツスタディーツアー 報告書



実施期間：令和元年 8 月 17 日（土）～24（土）

派遣国：バヌアツ共和国

主催：日本赤十字社

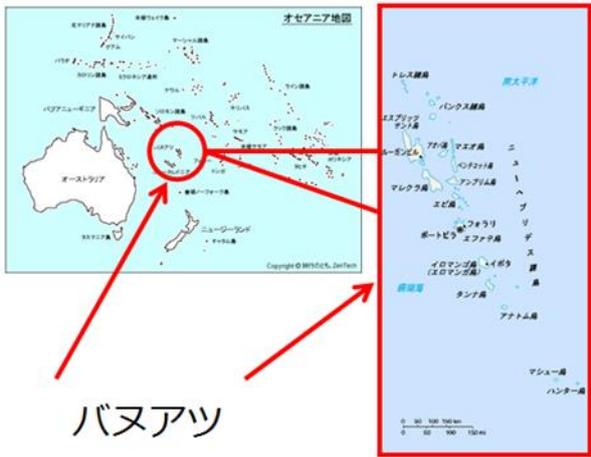


青少年赤十字海外支援事業スタディーツアー報告書目次

 青少年赤十字海外支援事業（バスアツ）概要	1
 青少年赤十字海外支援事業スタディーツアー概要	3
 派遣スケジュール	5
 滞在記録	
1日目【8月17日（土）】	6
2日目【8月18日（日）】	7
3日目【8月19日（月）】	8
4日目【8月20日（火）】	9
5日目【8月21日（水）】	10
6日目【8月22日（木）】	11
7日目【8月23日（金）】	12
8日目【8月24日（土）】	13
 感想文	14
 ワークショップ（活動計画作成）および実践報告	38

赤十字海外支援事業（バヌアツ） 概要

「青少年赤十字海外支援事業」は、日本の青少年赤十字メンバーの奉仕精神を醸成して、対象国赤十字・赤新月社の青少年赤十字メンバーの健康・安全の確保を図り、国際理解・親善を促進することを目的として平成29年度から実施している青少年赤十字海外支援事業に関連して、現地における実際の募金の使われ方及び募金によって改善した現地の状況を確認することで、事業への参加意識を芽生えさせること、今後の青少年赤十字活動においてリーダーシップを発揮する人材を育てることが期待されている。

対象国	バヌアツ共和国
事業期間	平成29年4月～令和2年3月
場所・対象	<p>・マレクラ島、サント島、タンナ島、エフェテ島など</p>  <p style="text-align: center; font-size: 1.2em; font-weight: bold;">バヌアツ</p>
事業実施背景	<p>オーストラリアの北東に位置する南太平洋の島嶼国、人口29.3万人で新潟県とほぼ同じ大きさのバヌアツ共和国は火山噴火、サイクロン、地震、津波、洪水や地滑りの多くを経験し、災害に対して脆弱な国です。</p> <p>2015年3月には巨大サイクロンにより当時の人口の約70%が被害を受けました。しかしながら、防災知識の普及、学校での災害対策が進んでいないために、被害の拡大を招いています。</p> <p>バヌアツ赤十字社事態が災害リスク軽減や防災教育への意識が高く、バヌアツ教育研修省との連携も積極的に行われています。日本赤十字社は平成29年度から支援を開始しました。</p>
活動内容	<p>自分の身を守る実践的な方法として、授業の中で災害について考え、命の守り方についての理解を深めるだけでなく、避難訓練などを通じて実践的で具体的な方法を洗い出し、スキルを身につけます。</p> <p>救急法の指導は、バヌアツ赤十字社に所属しているユースボランティアを</p>

	<p>中心に実施しています。</p> <p>また、日赤が作成した「まもるいのち ひろめるぼうさい」のような防災教材を活用し、防災学習をカリキュラムに組み込むため、赤十字スタッフが政府や学校と話し合い、学校で使える防災教材を作成しています。「災害とは何か」「災害が発生した際どのように自分自身の身を守るか」という、迫りくる災害に対しすぐに役立つ知識を普及していきます。</p>
<p>事業目的</p>	<p>目標 1： 学校において災害リスク軽減と防災の正しい知識を教えられる環境を作る</p> <p>目標 2： ターゲットとなる小学校の先生と生徒の災害リスク軽減の知識を増やす</p> <p>目標 3： バヌアツ赤十字社のボランティアのネットワークを強化し、災害時に対応できるようにする学校における防災減災に対する意識づけにより、災害に対する脆弱性を軽減する</p>
<p>写真</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>支援先の学校でこれから開始する事業について生徒への説明するバヌアツ職員</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>ユースボランティアが支援先の学校で災害リスク軽減の研修を実施している様子</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>指導者に対して救急法の研修を実施している様子</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>中間モニタリングにて支援先の学校での歓迎の様子</p> </div> </div>

青少年赤十字海外支援事業バヌアツスタディーツアー 概要

1 目的

青少年赤十字活動資金（通称：1円玉募金）等を用いて平成29年度より実施している青少年赤十字海外支援事業に関連して、現地における実際の募金の使われ方および募金によって改善した現地の状況を確認することで、事業への参加意識を芽生えさせること。また、支援対象の国の青少年との交流や活動を通じて青少年赤十字の実践目標「国際理解・親善」について実体験を通じた学びを得、今後の青少年赤十字活動及び国際社会においてリーダーシップを発揮する人材を育てること。

2 派遣場所

バヌアツ共和国 首都 ポートビラ

3 日程

- (1) 第一回事前研修：令和元年6月16日（土）
- (2) 本日程【第二回事前研修を含む】：令和元年8月17日（土）～8月24日（土）
※第二回事前研修は令和元年8月17日（土）出国前に実施
- (3) 事後研修：令和元年9月7日（土）
- (4) 報告会：令和2年3月23日（月）
※令和元年度青少年赤十字スタディー・センター内で実施予定

4 参加者一覧

(1) 青少年赤十字メンバー

県名	学校名	名前	ふりがな
福島県	福島県立郡山高等学校	昆 茉莉花	こん まりか
栃木県	栃木県立真岡女子高等学校	仁平 温香	にへい はるか
埼玉県	埼玉県立岩槻高等学校	荒木 菜那	あらか なな
東京都	順天高等学校	富澤 二葉	とみざわ ふたば
愛知県	愛知県立南陽高等学校	山本 昂輝	やまもと こうき
大阪府	大阪国際滝井高等学校	雨宮 珠音	あまみや じゅね
兵庫県	滝川第二高等学校	溝口 和愛	みぞぐち わかな
長崎県	鎮西学院高等学校	宮田 杏	みやた あん

(2) 指導スタッフ

県名	学校名	名前	ふりがな
京都府 (団長)	京都府立嵯峨野高等学校	中井 正典	なかい まさのり
富山県	高岡向陵高等学校	浦上 真由美	うらかみ まゆみ

(3) 日本赤十字社職員

所属	名前	ふりがな
日本赤十字社 パートナーシップ推進部 青少年・ボランティア課長 ※国内研修のみ	藤枝 大輔	ふじえだ だいすけ
日本赤十字社 パートナーシップ推進部 青少年赤十字係長	宮崎 友紀子	みやざき ゆきこ
日本赤十字社 パートナーシップ推進部 青少年・ボランティア課主事	松原 昌平	まつばら しょうへい

5 派遣国における活動内容

(1) バヌアツ赤十字社表敬訪問

(2) 事業対象地域の学校訪問

Sea Side Community Presbyterian School

Vila North School

Mele Centre School

- ・津波避難訓練
- ・指導スタッフによる防災授業
- ・日本の青少年赤十字活動及び学校の紹介
- ・文化交流

(3) 国家防災事務所

(4) ラジオ局

(5) JICA

(6) 商工会議所

(7) ホームステイ

(8) スメア市内研修 (ニューカレドニア)

(9) エファテ周辺スタディーツアー (バヌアツ・エファテ島)

派遣スケジュール

令和元年度 青少年赤十字海外支援事業スタディーツアー 日程表
(Study Tour 2019 with Vanuatu Red Cross Society)

	1日目 (Day 1)	2日目 (Day 2)	3日目 (Day 3)	4日目 (Day 4)	5日目 (Day 5)	6日目 (Day 6)	7日目 (Day 7)	8日目 (Day 8)
	8月17日(土) August 18 (Sat)	8月18日(日) August 18 (Sun)	8月19日(月) August 19 (Mon)	8月20日(火) August 20 (Tue)	8月21日(水) August 21 (Wed)	8月22日(木) August 22 (Thur)	8月23日(金) August 23 (Fri)	8月24日(土) August 24 (Sat)
7:00								07:50 成田着/Arrive
8:00	※ 8/16(金) 19時までに成田空港近郊のホテルにチェックイン /check in Hotel by 19PM	朝食/Breakfast	朝食/Breakfast	朝食/Breakfast	朝食/Breakfast	朝食/Breakfast	朝食/Breakfast	空港で解散/Go back home
9:00	第2回事前研修@成田空港/MTG @ Narita Airport (N1)	研修 @Hotel	移動/ Move to Le Lagoon Hotel for official welcome of JRC delegation in Vanuatu.	移動/Move to Vila North School: > Meet with teachers and school council. > Observe DRR teaching in school. > Show casing of DRR activities in school and interacting with students.	移動/Move to Mele Centre School: > Meet with teachers and school council. > Observe DRR teaching in school. > Show casing of DRR activities in school and interacting with students.	移動/Move to Mele Centre School to observe tsunami evacuation drill. 津波避難訓練	エファテ周辺スタディーツアー / Study tour around Efate Island	
10:00	10:00 Check in/MTG 成田空港/Narita Airport	スメア市内研修/ Study tour in New Caledonia	Le Lagoon Hotel: > Presentation of International Youth Cooperation Project Report (2017 to 2019).					
11:00		昼食/ Lunch						
12:00	12:15 出国/Departure at Narita Airport (SB801)	スメア市内研修/ Study tour in New Caledonia	Le Lagoon Hotel: 昼食/ Lunch (prepared by VNRC)	昼食/ Lunch at Vila North School (prepared by VNRC)	昼食/ Lunch (prepared by JRCS)	昼食/ Lunch in Mele village. (prepared by VNRC)	昼食/ at North Efate (prepared by VNRC)	
13:00			バスアツ赤十字社訪問 / Visit Vanuatu Red Cross Society HQs	(3時間) 国家防災事務所への訪問 / Visit to NDMO & VMGD > MoET	(3時間) >1: JICA J-PRIZM >2: 商工会議所 /Chamber of commerce			
14:00								
15:00		14:35 空港へ移動 /Move to Airport						
16:00			学校①訪問/ Visit to Sea Side Community Presbyterian School : > Meet with teachers and school council. > Observe DRR teaching in school. > Show casing of DRR activities in school and interacting with students.	・施設訪問/ Visit other facilities ・ラジオ局訪問/ Media or Radio Station: FM 107 と Rad でのライブインタビュー Live interview at FM 107 and Radio Vanuatu.	ホームステイ/ Homestay (All members: Students, teachers and staff) move to Mele Village.	バスアツ赤十字社にて会議/VRC Workshop MTG	エファテ周辺スタディーツアー / Study tour around Efate Island	
17:00		16:35 出発/Departure to Vanuatu (SB230)						JRC代表団の送別会/ Farewell dinner for JRC delegation venue to be confirm.
		17:40 バスアツ着 /Arrival in Vanuatu.	ホテルへ移動 / Move back to hotel.	ホテルへ移動 / Move back to hotel.	メレ村でのホームステイ/ Homestay in Mele village	ホテルへ移動 / Move back to hotel.		
18:00		ホテルへ移動/Move to Hotel	夕食/Dinner	夕食/Dinner	夕食/Dinner: at host family HOME	夕食/Dinner		Move to Hotel
19:00		夕食/Dinner						18:45 空港へ移動 /Move to Airport (SB231)
20:00		ホテルにて会議/ Meeting at hotel	ホテルにて会議/ MTG at hotel	ホテルにて会議/MTG at hotel	ホームステイ/ Homestay (All members: Students, teachers and staff) move to Mele Village.	ホテルにて会議/MTG at hotel		19:50 スメア着 /Arrival at (SB231)
21:00		就寝準備/ Bed time	就寝準備	就寝準備	Sleep at host family's HOME	就寝準備		00:50 スメア発/Leave to Narita Airport (SB800)
22:00	22:50 スメア着 /Arrival at Noumea, New Caledonia							
	ホテルへ移動 / move to hotel.							

※プログラムは調整中であり、変更になる場合があります。

滞在記録

≪ 1日目 8月17日(土) ≫		
時 間	交通機関	日 程
07: 45	SB801 便	ホテルロビー集合
08: 00		第2回事前研修
10: 00		成田空港第1ターミナル北ウイングにてチェックイン
12: 15		成田空港発、空路(SB801)でヌーメアへ
22: 50		ヌーメア着 【宿泊: Nouvata(ヌバタ)】
朝食: ホテル		昼食: 機内食
		夕食: 機内食

ホームルーム日誌

No. /

令和 元年 8 月 17 日 (土) 天候 (晴れ)	記入者 宮田
・本日の感想、反省	
・朝、時間までに全員がそろい、ゆっくりと朝食を取ることができた	
・成田空港の事前研修では、飛着や歌の確認ができて良かった!! 本番では、さらに想いが伝わるように頑張りたい	
・予約時間のフライト、2回の食事に美味しかった	
・望港のセネガリヤの人が日本語を話してくれて嬉しかった	
・長時間フライトで皆疲れているように見えた、明日から頑張ろう!!	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事	
・入国カードの記入の仕方	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
・溝口さんが自分の荷物と別に紙ぶくろの荷物を持ってきていた	
・先見、VS活動(今日できた事)	
・明日への自分の課題、要望	
・明日はいよいよバヌアツに行くので、虫や日射しに注意していきたい。	
・環境の変化を楽しむ	
・ベアの子がアムンというが確認しなから、行動する	
・HISさんの指事に従いながら、きちんとついていく	

◀ 2日目 8月18日(日) ▶		
時間	交通機関	日 程
08:00 10:00		◆ホテル内 研修 ◆ヌーメア市内研修 ウアントロの丘、朝市、ココティエ広場などの市内視察
16:35 17:40	SB230 便	ヌーメア発、空路(SB230)でポートビラへ ポートビラ着 ◆ホテルにて会議 【宿泊: The Melanesian Port-Vila (ザメラネシアンポートビラ)】
朝食: ホテル		昼食: 夕食: ホテル

ホームルーム日誌

No. 2

令和 元年 8月18日(日) 天候(晴れ)	記入者 仁平
・本日の感想、反省	
ニューカレドニアの歴史が分かってよかった。博物館でいろいろを学べた。	
バヌアツの人たちはけんけん楽しそう。あいつを連れて帰りたい。	
JRCのバッチを売っているとみんな声をかけてくれてもっと頑張ろうと思った。	
朝食の時間に遅れちゃったので"今後は気を付ける。	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事	
ミッケン、ハッキンの内容について私たちが考えたいことがあった。	
教える立場にいるには内容について理解する必要がある。	
相手に伝えるには、超積極的にあいつや会話をする必要がある。	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
遅れたいことをみんなに謝った。	
スウィーソンの物動をみんな協力した。	
税関のレポートをみんな協力してくれた。	
・先見、VS活動(今日できた事)	
荷物を協力して運んだ。車いすの荷物を分けた。	
朝の研修時に新聞紙を奪われて歉いた。	
・明日への自分の課題、要望	
今日は、自分のことで精一杯だったので明日は周りを手伝って行動する。	
学校訪問の日などは、大きな声であいさつする。	
臨機応変に行動できるようにする。	
気づき、考え、実行するを頭に入れた行動する。	

《 3 日目 8 月 1 9 日 (月) 》		
時 間	交通機関	日 程
09: 00		◆Presentation of International Youth Cooperation
12: 00		Project Report
13: 00		◆バヌアツ赤十字社訪問
13: 30		
14: 00		◆学校訪問 Sea Side Community Presbyterian School
16: 30		◆ホテルにて会議
【宿泊: The Melanesian Port-Vila (ザメラネシアンポートビラ)】		
朝食: ホテル		昼食: Le Lagoon Hotel
		夕食: 機内食

ホームルーム日誌

No. 3

令和 元年 8 月 19 日 (月) 天候 (晴れ)	記入者 雨宮
・本日の感想、反省	
◦時間がおいても臨機応変に対応することができて良かった。	
◦バヌアツ赤十字の現状を知れて良かった。 →日本からの支援を頼りすぎるのではなく、自分たちでいろいろ工夫して災害の対策をしようとしているのを知れて良かった。	
◦国際交流で積極的に話しかけて良かった。 →緊張して一歩ふみだせばかえってから明日はがんばると思う人もいた。	
・海外派遣中に分かったこと、分らなかった事	
◦単語だけでなくアイコンタクトなどで会話できることが分かった。	
◦現地の子はすぐに日本語を覚えようとしてくれて日本に興味をもってくれているんだなと思いき嬉しかった。→シャイな子が多く日本と似ていた。	
◦災害についてとてもよく学んでいた。	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
◦周りを見て意見を言ってくれた人がいたこと。	
◦周りを見て笑顔で話せていた人がいたこと。	
◦先生の呼びかけに率先して動いていた。	
◦山本さんのレディーファースト	
・先見、VS活動(今日できた事)	
◦自分からすすんで英語で話せることができた	
・明日への自分の課題、要望	
◦みんなをひきつける力をひきだしたい。	
◦起きるタイミングを事前に考えておく。	
◦プレゼンをするべく前を向いてやる。	

◀ 4日目 8月20日(火) ▶		
時間	交通機関	日程
09:00		◆Vila North School
10:00		
13:30		◆国家防災事務所への訪問
14:30		
15:00		◆ラジオ局訪問
17:00		
◆ホテルにて会議 【宿泊: The Melanesian Port-Vila (ザメラネシアンポートビラ)】		
朝食: ホテル		夕食: ホテル
		昼食: Vila North School

ホームルーム日誌

No. 4

令和 元年 8月 20日 (火) 天候 (晴れ)	記入者 荒木
・本日の感想、反省	
昨日よりも、マラカスやタンバリン、ギターなどを使ったことでまとまって歌えた。プレゼンや文化交流がうまくできた。日々良くなっていくから最後の日は完璧だと思う。メンバーが明るくなったことで、今まで以上に盛り上げられた気がした。結構流れが掴めた。ラジオ局で、マイクの前に座ったときすごく緊張したけど周りの方が優しく良かった。プレゼンで、視線をくばりながらやる事ができた。気が楽になってうまくできた。	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事	
バヌアツの人は災害に対する意識が日本人より高いと思った。気象庁で、「学校では防災教育はしているけど大人の人はどうなのかな?」という質問に対して、しっかり組合などで教えていることが分かった。サイレンはかいてはいるけど本当に鳴るのが疑問。津波に3種類あることが分かった。	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
折り紙のプレゼンの時、みんな協力できたこと。 自らインタビューをしていたこと。 積極的に自分から話しかけたり写真を撮ってもらっていたこと。 英語が分からないうち、メンバー同士で教えあえたこと。	
・先見、VS活動(今日できた事)	
折り紙の時教えてあげられた。助け合いができた。 "きけんほっけん"で良いか悪いか質問できた。 ホームステイ先での質問を考えた。	
・明日への自分の課題、要望	
自分の中に残っているものが何なのか分からないから、意識して行動したい。学んだことを自分の中に取り込みたい。ホームステイで、積極的に質問などして後悔のないような濃い時間になりたい。午前中も気を引き締めて行動したい。学校訪問の本番を今まで以上にやる!	

≪ 5 日目 8 月 21 日 (水) ≫		
時間	交通機関	日 程
09: 00		◆Mele Centre School
11: 00		
13: 30		◆JICA J-PRIZM
14: 30		◆商工会議所
		◆メレ村でのホームステイ 【宿泊: ホームステイ】
朝食: ホテル		昼食: レストラン
		夕食: ホームステイ

ホームルーム日誌

No 5

令和 1 年 8 月 21 日 (水) 天候 (涼)	記入者 溝口
・本日の感想、反省	
ホームステイが1番印象的だった。夕0年(ココナツ)、サウダが予想以上に美味しかった。「2kmの平地を走る」と聞いて、明日の遠距離を訓練がとっぴな気がする。ホームステイ先では、髪が長いことが髪を覆われないで済んだ気がする。何回も色々な髪型をやってきました。	
Mele Centre School で最後の「世界に1つだけの花」を歌って、今までの中で最高の出来栄だった。	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事	
○ 野村大・猫、いわえり、ふたがー村にいる。	○ 多分には「村のオケラ」が おもしろい
○ 村の方言が面白い = 災害時は「誰もたぶない」	
○ 行く予定はなくて、真一暗がた => 災害時夜たたららどうする?	
○ 色々な世帯で生活している	○ 月2が1円玉裏面で作られている。
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
中井先生 → 「逃げ遅れたら子供たちは死んでしまうんだ」	
宮崎さん → 「マズリをなんでも自分たち支援者だけが付けているのが」	
○ 「幸せ = 支援はいらない」ではないんだ	
・先見、VS活動(今日できた事)	
周りを見ること(言っても忘れない、今の状況に巻き込む)	
他人事だと思わない	
どこにまだ支援が必要なのか、常に考える。	
・明日への自分の課題、要望	
○ 遠距離を訓練でバテない、頑張り続ける。	
○ バツ赤の全言葉で、色々な意見を考え、生み出す。	
○ 言っても忘れない	
○ WSでどんなテーマでやるか考える	

≪ 6 日目 8 月 22 日 (木) ≫		
時間	交通機関	日 程
09: 00 11: 00 13: 30 16: 30		◆Mele Centre School 津波避難訓練 ◆バヌアツ赤十字社にて会議 ◆ホテルにて会議 【宿泊: The Melanesian Port-Vila (ザメラネシアンポートビラ)】
朝食: ホームステイ		昼食: Mele village 夕食: ホテル

ホームルーム日誌

No 6

令和 元年 8 月 22 日 (木) 天候 (晴れ)	記入者 昆
・本日の感想、反省	
・持ってきたお土産(折り紙、菓子、扇子、はしなど)を喜んでくれた	
・簡単な英語でも通じて嬉しかった	
・ホームステイでバヌアツの良い所、悪い所が分かった	
・ホームステイの生活を見て便利なことで幸せは別だと知った	
・避難訓練の時、人数が多いので、全員をまとめるのが大変だと感じた 同様に、先生の声かけが大変だと思った	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事	
・ホストマザーが村の誰にでも言葉を交わすので、皆がっつり繋がっていると思った	
・バヌアツ赤十字と学校のつながりを保つのが難しい	
・ホームステイ中の生活から、幸せな暮らしと安全な暮らしは別だと感じた	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
・始めよりも協力する場面が多い	
・荒木さんが全体を丁寧に見て、ものごとを考えている	
・宮田さんが先生方に注目して分析した	
・先見、VS活動(今日できた事)	
・今回身につけた「先見」の能力をこれからも続けていきたい	
・経験したことはその時しか言葉にできないのですぐ書く	
・事後研修でバヌアツの良いところと改善点をまとめて、バヌアツを紹介する	
・明日への自分の課題、要望	
・送別会でリンダさんや学校の校長先生に聞きもらしたことを尋ねて、疑問をなくす	
・現地の人から日本に伝えたいことを訊く	

◀ 7日目 8月23日(金) ▶		
時間	交通機関	日 程
09:00 15:00 午後 18:45 19:50	SB 231 便	<p>◆エファテ周辺スタディツアー</p> <p>◆JRC 代表団の送別会 ポートビラ空港発、空路(SB231)でヌーメアへ ヌーメア着、東京へ向け乗継となります</p> <p>【機内泊】</p>
朝食: ホテル	昼食: North Efate	夕食: JRC

ホームルーム日誌

No 7

令和元年 8月23日(金) 天候(晴れ)	記入者 畠澤 二葉
・本日の感想、反省	
<p>カルチャーセンターで無形文化遺産にも登録されている砂絵を見て、ビーチに行き、亀を見たり、 テニスコートでお昼のバーベキューを軽く食べ、バヌアツ赤十字に行き、送別会をしてもういじ た。その際バヌアツ赤十字メンバーが用意してくれたお昼も食べました。</p> <p>砂絵は一等書まである1つの絵ができていくのが本当に驚きました。ビーチで見た亀は 思ってたより大きくて、カットしたパイプをあげるのですが、正直結構恐かったです。あと、本物のヤ クが泳いでいる姿を初めて見たので興奮しました。送別会では1人1人スピーチをしました。私も前日の夜から原稿^{と書いて} ・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事 感謝が伝わるようにがんばりました。</p> <p>砂絵を見学した時に、「これが出来る人は本当に少い」という話を聞きました。 実際に見ると本当に素晴らしい伝統で、守るべきものだと思いましたが、日本と同じよう に伝統継承は大変な仕事だと思います。日本とバヌアツにも思わぬ共通の課題点 見つけました。</p>	
・メンバーの言動で感銘を受けた事	
<p>送別会の時に、バヌアツ赤十字メンバーが音楽に合わせて踊り出して、「JRCメンバーも一緒 に!」と言われました。私は少し恥ずかしい気もしてそぼり泣いていたんですが、山本くん と昆くんが率先して踊り出して、それを見て私たち他のメンバーも参加することになりました。</p>	
・先見、VS活動(今日できた事)	
<p>バヌアツ赤十字のメンバーがしてくれた送別会のスピーチ用に前日の夜と、当日の朝に 英文を用意しました。指導スタッフの先生の中井先生にも助けをもらって、現地 の人たちへの感謝が伝わるように心をこめて書きました。</p>	
・明日への自分の課題、要望	
<p>翌日はずっと飛行機に乗って帰国7日です。約1週間いたバヌアツが懐かしい感じが しますが、日本に帰ってからが特に大切だと思ってるので、バヌアツで学んだこと、見て きたこと、感じたことなどを自分に何かができるのか考えようと思えました。</p>	

◀ 8日目 8月24日(土) ▶		
時間	交通機関	日 程
00:50 07:50	SB 800便	ヌーメア発、空路(SB800)で東京へ 東京成田着 現地解散 成田空港第1ターミナル北ウイング お迎えの保護者の方は1階到着口へ
朝食：機内食		昼食： 夕食：

ホームルーム日誌

No 8

令和 元年 8月 24日(土) 天候(晴れ)	記入者 山本
・本日の感想、反省 何事もなくみんな無事に帰宅しました。	
・海外派遣中に分かったこと、分からなかった事 日本との文化や食文化の違い	
・メンバーの言動で感銘を受けた事 みんなで助け合いながら無事にツアーを終えました。	
・先見、VS活動(今日できた事) 感想文や活動計画の内容を考える	
・明日への自分の課題、要望 事後の反省にも課題をあげないこと	
指導者からのコメント(記入者:)	

感想文

人生の転機

福島県立郡山高等学校 昆 茉莉花

今回のスタディーツアーで、私は2019年8月17日から28日までバヌアツ研修に参加しました。私がこのツアーに参加した目的は、日本と同様に災害大国であるバヌアツがどのように防災を身に付けているのかを現地で体験することで知ることです。私はこのツアーに参加するまでバヌアツがどんな国なのか詳しく知りませんでした。しかし、そこから得られる経験があると思い参加を決めました。

首都ポートビラにある学校を3校訪れましたが、どの学校も災害の授業にかなり力を入れていることが分かりました。1円玉募金によって作られた自然災害に関するポスターを説明したり、文節を並べ替えて防災に役立つ正しい文章を作ったり、サイクロンや火山噴火に関する詩や劇を発表したり…。子どもたちも真剣に先生の話の聞いたり積極的に手を挙げたりしていました。

またツアー5～6日目に訪れたメレ学校では避難訓練に参加しました。校舎が海の近くにあるため、2～3km先にある小高い山のほうまで走って行きました。終わった後に生徒に感想と反省点を聞き、現地の先生方とも避難時にどう行動すれば最善か話し合いました。未だ防災・減災について知識を持っている教員が少ない学校が多く、正しい知識を備えた教員の育成も課題の1つに挙げられています。

ツアー4日目にラジオ局に行く機会があり、私は「なぜ防災について学ぼうと思ったの？」という質問に対して「東日本大震災を経験してから同じように支援を必要としている人たちの助けになりたいと思ったから」と答えた。災害時に頼みの綱となるラジオで防災の内容の放送がされているのは良い取り組みだと思いました。街中を移動している間にも津波が起きたときの避難する方向を示す看板やハザードマップが設置されているのを何度も見かけました。

約3000人が暮らすメレ村へホームステイしたときには日本とは違った文化を経験することになりました。滞在中に1番印象に残ったことはニワトリの鳴き声で起床したことです。また、お互いについて話す時間が多かったので一般人の生の声が聞けたのは良かったです。日本からのプレゼントを渡したときは、とても喜んでもらったのが嬉しかったです。

今回のスタディーツアーに参加したことで、バヌアツがどんな状況か、私にはどんなこと

ができるのかを知る良いきっかけになりました。この経験を機に、今後のあらゆる活動においてさらに主体的に活動しようと思います。



メレ学校の子どもたち



学校での防災教室



本事業を担当するバヌアツ赤十字のリンダさんと



1円玉募金で作成された自然災害に関するポスター



Sea Side Community Presbyterian Schoolに通う子どもたち



防災教育の大切さ

栃木県立真岡女子高等学校 仁平 温香

青少年赤十字海外支援バヌアツスタディーツアーはとても充実した8日間となりました。

バヌアツの赤十字社で日本からの一円玉募金による支援が防災教育に役立っている等の説明を聞いて、ラジオ局見学、3校の学校訪問などと、たくさんのプログラムを体験しました。特にホームステイは、大変緊張しました。私が想像していた家とは全く違い、トイレはバケツで流す、火は木を切っておこすなど驚くことばかりだったからです。しかし、家族はとてもやさしく、たくさん話しかけてくれたり、持って行った日本のお土産のお箸を使って夕飯を食べようとしてくれたりしました。私がホストファミリーに「バヌアツの生活は幸せですか？」と尋ねると「はい。みんながやさしくこの村に住めて幸せです」と言われました。泊まったホテルは、普通に電気も水もありましたが、ホームステイした村は全く違う世界でしたが文化や地理が異なる海外で現地の人からすると、不便なことは不幸なことではないのだと感じました。

防災対策授業や避難訓練と一緒に体験し、災害に対して考えることは、非常に大切だと感じました。津波を想定した避難訓練では、高台まで2km走りました。避難完了までの時間は早い人で20分、遅い人だと40分ぐらいかかるのです。疑問を感じる訓練でしたが、バヌアツの人は実際に津波を見たことがないのでどのようなものかわからないのです。私は、津波の恐ろしさを知っています。それは、東日本大震災の時に感じたものです。バヌアツの人達に津波の避難方法だけではなく実際に、津波がどのような速さで到着し、どのような恐ろしさを持っているかを、まず伝えるべきだと思いました。この国では以前は全く防災教育が行われていなかったと聞きました。バヌアツで災害対策が以前から行われていたら、救えた命があったと思いました。

私は引率して下さった指導者の中井先生に言われた言葉が心に響いています。「以前のように防災教育が行われていなかったら、訪問先の学校で交流した年代の子が命を落とすことになる」知識がないことで失う命を無くしたい。そのために行動を起こしたい。私は、そう思っています。

バヌアツに行き、日本には感じることでできない経験をたくさんしました。今回学んだことを、私の今後の進路や生活で最大限に生かしていきます。バヌアツに行く機会を与えていただき参加までの研修等でご支援くださった皆様に感謝しています。ありがとうございました。



青少年赤十字活動を紹介



日本メンバーが歌を披露



高台まで 2 km移動する津波の避難訓練



長距離を走って移動する



ホームステイ先の JRC メンバーと



防災授業でバヌアツのメンバーに質問

高校生の自分にできることは

埼玉県立岩槻高等学校 荒木 菜那

私は、今回のスタディーツアーに参加させていただいて、ハッキリとは分かりませんが自分の中の何かが変わった気がしました。今まで私はあまり深く幸せについて考えたことがありませんでした。でもこのプログラムで幸せとは何なのか、私たちの考えてる幸せが現地の人々の幸せと同じなのか、ということをとくさん考えさせられました。

現地についたとき、私が1番初めに驚いたのはみんながみんな笑顔だったことです。小学校に訪問させて頂いた時も、児童、生徒みんなが暖かく笑顔で迎えてくれました。その笑顔を見た時、この大切な笑顔を守らなくてはいけないと強く思いました。また、救える命を救えたはずの命にしたくないと思いました。そしてもうひとつその時驚いたのは、自分の思っていた以上に親日だということです。バヌアツ共和国を知らない日本人はとても多いのに、現地の人々は日本を知っているだけでなく、日本人に感謝をしていました。それはこうして赤十字の方々が一生懸命支援してきたからこそだからだと思います。ですが、1人でも多くの尊い命を救うためには、まだまだ資金が必要だと思います。全ての問題において結局最終的には金銭面の問題に繋がるからです。だから、日本の人々にもっとバヌアツ共和国について知ってもらう必要があると思います。興味を持ってもらうことで一円玉募金などをさらに向上させたいです。私たち高校生には、たくさんのお金を寄付することは難しいです。でも、たくさんの人々にバヌアツ共和国について知ってもらうことはできます。この旅で、仲間と協力することの大切さ、また1人よりできることが増えるということを学びました。だから今できることを精一杯やりたいと思っています。

そして、ホームステイでは本当に沢山の経験をさせて頂きました。またすごく沢山のカルチャーショックも受けました。特にトイレやお風呂は発展途上国の現状を思い知らされるような感じでした。でも心優しく迎えてくださって本当に嬉しくて感謝の気持ちでいっぱいでした。お別れの時、お母さんに「いつでも帰っておいで、あなたは家族だからいつでも来ていいんだよ、あなたが次来る時までにはお風呂もトイレも綺麗にしておくからね」言われました。その言葉が本当に忘れられなくて、この村、このお母さんのところにホームステイできて本当に良かったと心から思いました。

メレ村での生活の中で、私たちから見ての問題点は沢山あるかもしれないけど、それを全て悪いものとして捉えるのではなく、相手の暮らしを尊重しながら支援したいと思いました。



自分の命をまもることを学ぶ避難訓練



笑顔が素敵な JRC メンバーたち



授業見学後はすぐ振り返り要点をメモ



ホームステイ先のキッチン



ホームステイ先のトイレ



家の前でホストマザーと

実際に見て感じること

順天高等学校 富澤 二葉

このスタディーツアーで見たこと、感じたこと、学んだことはその全てが私にとって初めてで、とても新鮮でした。また、無知のことに挑戦し続ける一週間でもありました。「いろんなことにチャレンジしてこい」バヌアツに行く前に親に言われたこの言葉を常に胸に抱えながらたくさんの知らなかったことを自分から経験していくようにしました。挑戦したら失敗することもあります、それでもバヌアツについてだんだんわかっていくうちに毎日がより楽しくなっていくのを感じていました。

私が一番印象に残っているのは学校訪問です。バヌアツの三校を訪れ、先生のする防災の授業を実際に見学したり「きけんはっけん」ゲームを教えたり日本についてスピーチで紹介したりしました。私の発表の担当は「日本の学校について」で、それに合わせて何人かの生徒たちに「学校は好き？」と聞いてみました。すると聞いた生徒全員が「好きだよ、楽しいもん」と答えて、まぶしいくらいの笑顔で笑ってくれました。彼らの本当に楽しそうな表情は今でも忘れられません。

六日目には学校の避難訓練も体験させてもらいました。彼らは大きな石やごみが散乱している山道をビーチサンダルで駆けていったので、見ながら危ないのではないかと心配してしまいました。その学校は海の近くで津波がきたら一発で飲み込まれてしまいます。だから一秒でも早く上へと逃げなければなりません、つまり避難訓練は本当に大事なものなのですという話を後から聞いて私はハッとしました。もし災害が起きたとしたら、私に笑ってくれた子どもたちが大好きな学校に行けなくなってしまうかもしれないと思って急に怖くなりました。防災教育の大事さを改めて感じ、私にできることを精いっぱいして少しでも力になりたいと強く思いました。

今回は約一週間という短い期間でたくさんのことを学び、経験しました。それを通して、異文化交流の楽しさを知り、災害に対する意識も高まりました。そして何より、「自分が何をできるのか」をよく考えるようになりました。相手が私に求める本当の望みは何か、想像して最善を尽くせるように努力することがこれからの私の目標です。

私はまたいつかバヌアツに行きたいです。優しくて元気で笑顔が素敵なバヌアツの人たちに会いに行きたいです。だからこのスタディーツアーの経験を周りに広めていくと同時に、私自身もまだバヌアツについて勉強して、次にバヌアツに行くときは今よりもっと成長した私になれるように頑張ります。

そして最後に、私がこんなに素晴らしい経験ができたのは、たくさんの方々の協力のおかげだと思っています。これに関わった全ての方々に感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。



ビーチサンダルや裸足で走って逃げる避難訓練



商工会議所にて



移動中のバスで歌を練習する



ホストファミリーと



学校生活を紹介



地元新聞に掲載された

バヌアツで感じたこと

愛知県立南陽高等学校 山本 昂輝

1 志望動機 目的

このスタディーツアーに参加した理由は学校の文化祭で 1 円玉募金を募り集まった募金がどのように使われているかが疑問に思い応募しました。

バヌアツは国連大学のリスク報告（2016 年版）で世界 171 か国中災害リスク指標が 1 位なので国が行っている防災対策を見みたいと思いました。

2 実際にバヌアツに行ってみて感じたこと

バヌアツについて、最初に感じたことは空港の周りが暗く日本では安全対策のため空港の周りを明るくしているのが驚きました。バヌアツは冬でしたがそこまで寒くなく半袖でも動ける気候でした。空港からホテルに移動するとき街灯がなくとても暗く夜の運転がとても危険だと思いました。現地の通訳さんによると移動手段はバスや徒歩で日本みたいに一家に一台車があるのはごく稀で、日本は車社会なのでとても不便だと感じました。

バヌアツの学校訪問で驚きの事を聞きました。それは日本赤十字社がバヌアツに支援を始めてから防災教育がスタートしたという事です。日本赤十字社とバヌアツ赤十字社が協力して製作した津波やハリケーンに関する防災ポスターが学校の壁に貼ってありました。支援する前は災害が起きても何の対策もなかったので日本赤十字社が支援したおかげで国民に災害意識がついてきているんだなあと思い支援を実感できた瞬間でした。しかしまだ防災教育は全然進んでいません。要因としてバヌアツには 100 の言語があり、言葉の壁の問題のせいでまだまだ防災意識の低い国民がたくさんいると思いました。学校で避難訓練を実際行いました。設定として 20 分で津波がくることになっていましたが問題点がいくつかある事に気づきました。1 つ目は避難所までの道が平坦で、避難所も一応津波は来ないですが海と一緒に高さなので気になりました。2 つ目は避難しているうちに先頭と後続との差がどんどん広がり後続が 20 分以上かけて避難所についたので、本当だったら津波に巻き込まれていると思いました。バヌアツは島国なので津波対策として堤防があるのが当たり前だと思っていましたが、堤防がなくとても驚きました。

スーパーに行く機会もあり商品を見ていると物価は日本並みなのですが、バヌアツの平均月収は 4 から 5 万円であり、政府関係者で 10 から 15 万円なのでとても高いなと感じました。バヌアツはほぼ輸入に頼っているので高いのも納得しました。国民はスーパーではな

く市場で野菜などを買っているそうです。

3 まとめ

このスタディーツアーを終えて、バヌアツの現状を知ることができました。この報告書を見てバヌアツの人々は幸せじゃないと思う人もいるかもしれませんが私はバヌアツの人は幸せだと感じました。文化交流でもメンバーと生徒がとっても楽しそうに交流していて生徒がきらきら光っているように見えました。

しかしまだバヌアツには支援が必要だと感じました。国民の防災教育などの国民の防災に対する意識の向上など問題が山積みなので、日本の赤十字社の募金活動が続き、バヌアツがより良い方向になるように願っています。



青少年赤十字メンバーの前で発表



避難先へメンバーと移動



商工会議所にて災害に備える活動を学ぶ



防災授業をうける小学生

現地へ行ったからこそ知れたこと

大阪国際滝井高等学校 雨宮 珠音

バヌアツスタディーツアーで過ごした8日間は私の人生にとってとても貴重な体験となりました。

バヌアツについてまず感じたことは日本との違いです。

1番印象に残っている大きな違いは信号や大きな建物がほとんどなかったことです。なぜこんなに少ないのかと聞くと、バヌアツは税金がないため国のお金がなく信号や病院など日本には当たり前にあるものが作れないと言われました。

私は税金を取ればいいんじゃないかと思いましたが、税金を取れるほど労働者がお金をもらっていないと知りさっそく貧困問題に直面することとなりました。

次に印象に残っていることは、現地の学校訪問です。現地の学校は思っていたよりも設備が整っていて少し安心しました。学校では今回の目的であるバヌアツの減災教育の授業を見せてもらったり、日本の防災教材と一緒にしたりして交流しました。

現地の減災教育は想像以上に普及していてさらに日本と変わらないくらいとてもしっかりしていて、子どもたちも真剣に取り組んでいて私は嬉しく思いました。また交流ではみんなとても話しかけてくれたのですが少ししか理解できず会話が途切れてしまってとても悔しい思いをしました。が私はそこで英語ってきれいな英文法で話そうとしなくてもジェスチャーや単語だけでも伝わることを学ぶことができました。

最後に印象に残っていることは現地の赤十字社訪問です。多くの人から歓迎の挨拶を受けたり、現地のネックレスをもらったりと感謝の言葉を受け「ああ支援をするってこういうことなんだな」と思い今までしてきた自分の行動に自信を持つことができました。しかし、バヌアツ赤十字の話ではまだまだ支援が足りていないのが現実で私は日本に帰ってからなにをすることができるのか、何をすべきなのかと考えさせられました。

実際に現地の人とコミュニケーションをとることで私はこの支援を絶対に自己満足だけでおわらせたくないと強く思いました。

私はこの8日間の研修で、日本にいたら知ることのできなかつたバヌアツの現状をここには書ききれないほど学ぶことができました。その経験をむだにはせずたくさんの人にバヌアツ共和国を知ってもらえるように活動していきたいと思います。

今回このような素晴らしいプロジェクトに代表としていくことができとても光栄に思います。また支えてくださった方々にとっても感謝しています。ありがとうございました。



現地の子どもたちと交流



折り紙で一緒に鶴を折る



防災の授業を見学



青少年赤十字活動を紹介



バナアツ赤十字社のユースボランティアと



減災教育(避難訓練)の様子

バヌアツの「笑顔」と「幸せ」を守るために

滝川第二高等学校 溝口 和愛

私達は普段から JRC という場で、一円玉募金を通じて支援をしています、本当にその必要性を理解して募金を行っているかと言われると、まだ出来ていないと思います。私は今の状況を変えたくて、今回のスタディーツアーに参加しました。その経験を元に、WS についても話題に上がる、「現地に行ってみなければ分からない」という越えられない壁を越え、ワンステップ進んだ支援の方法を考え出せばいいな、と考えています。

今回スタディーツアーで訪れたバヌアツという国は、最初は私にとって無縁の場所でした。一円玉募金で支援している事は薄々知っていましたが、どんな土地でどんな人がいるのか、場所の情報は一つ知りませんでした。そんな中、私が想像した街は「ネパール」です。もう 1 つの支援先であり、私の先輩が去年の 12 月にスタディーツアーで訪れた場所でもあります。私の先輩のプレゼンを聞いた時、「ネパール」は最貧国であり、衛生が行き届いていない、日本とはまるで違う場所というイメージを持ちました。ですが、私の予想は外れました。ネパール＝バヌアツ、では無かったのです。

私が訪れたバヌアツは、人々は優しく、いつも笑顔で、幸せに満ち溢れていたし、トイレやお風呂も十分生活出来る程の清潔さでした。だから自分の中で「本当に支援の必要があるのか？世界一幸せな国であるバヌアツにこれ以上私達の考えを押し付けていいものか？」と葛藤していました。ですが、現地の学校の避難活動に参加した瞬間、その考えは覆りました。高い場所がない、海に囲まれている、病院がない、それら全てが、日常では何ら問題がない事ですが、「災害時」になると「死」に直結する悪条件だと知りました。「災害」に対して、バヌアツはあまりにも最脆弱である事を改めて突き刺されたような気がしました。「この国の幸せ＝支援しなくていい、ではない」「災害にさらされた瞬間この国の笑顔はなくなる」「逃げ遅れた子供たちは簡単に死んでいくんだ」その言葉が今でも私の心に残っています。私は、現地の子供たちの笑顔を守りたい、そう思いました。

今回、このスタディーツアーで学ぶことが出来た、「現地に行かなければ分からないこと」を広めるために、私達にできることをやろうと思いました。たった 1 人の高校生ができることはとても少ないかもしれないけれど、今回のスタディーツアーで身につけた、自分自身にすごく自信が持てるようになったし、どんな場所でも果敢にチャレンジできる強さを胸に、日本中に広めたいと思います。この世界の、この国の、「笑顔」と「幸せ」を守るために。



バナアツの小学生に歓迎される



大きな折り紙で鶴の折り方を披露



JICA では青年海外支援協力隊のお話も



まとめと補足の時間



「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん」を実施



ラジオ局でのインタビュー

私たちが見たもの

鎮西学院高等学校 宮田 杏

わたしが今回青少年赤十字海外支援事業スタディーツアーに参加させていただいた、1番の目的は、現地でどのように一円玉募金が使われているか実際にこの目で確認する、というものでした。どのようなものを見て、何をしてきたか、特に印象に残ったものを紹介します。

まず小学校での「きけんはっけん」を行なったことです。これは日本赤十字社が作成した街の絵の中から危険な場所を子供たちによって発見させるという活動です。私は最初、子どもたち自身で発見することはできないだろうと思っていました。しかし、「きけんはっけん」を行う前の現地の先生方による災害に対する授業、またそれに対する子供たちの積極的な姿勢に驚きました。地震、津波、洪水などの6つの災害。それがどのように起こり、どのような被害をもたらすのか。その中には私が知らなかったことも含まれており、私自身そのことを恥ずかしいと思いました。知らなかったことというのは、津波には三種類あるということでした。災害について教えなければいけない立場にしながら、知識がなかったこと、私ももっと災害について学びを深める必要があると思いました。現地の先生に、『私ももっと津波について日本で学んで、学んだことをまた伝えにきます』ということ約束しました。

次に、ホームステイで体験したことです。私は元々3人家族の家にホームステイさせていただく予定でしたが、急遽変更があり、私たちのバスでの移動を手助けしてくれていたポールさん一家のもとにお邪魔することになりました。お土産の量や話す内容を心配していましたが、それをかき消すぐらいの笑顔で、ファミリーが出迎えてくれました。家の周りを近所の子供たちと一緒に案内してくれたり、私のためにビスラマ語で歌を歌ってくれたりしました。夕食の後、日本の文化をいくつか教えたり、日本のお菓子をあげたらすごく喜んでくれて、本当に楽しむことができました。お互いに初めてのことばかりでどれも新鮮でした。最後に「シスターアン」と呼んでくれたのが私のこの旅の一番の思い出です。

最後に一円玉募金の現地での使われ方です。印象に残ったのはポスターで、ほとんどの学校や場所に訪問しても六つの災害についてのポスターがありました。特に驚いたのは、津波についてのポスターが“TSUNAMI”と日本語で表現されていることでした。やはり2011年に起きた東日本大震災がもたらした被害が世界に津波の恐ろしさを伝えたのと同時に、日本赤十字社の教えがちゃんと伝わっていることを確認することができました。また、街の中には赤十字の支援により建てることのできた避難経路などの看板がたくさん見受けられ、私たちの支援だけじゃなく、バヌアツ赤十字でも防災の取り組みが行われているんだなど

感じました。

今回本当に素晴らしい経験をさせていただきました。しかしここで完結させず、次は「私たちが見たもの」を多くの人に伝える活動を頑張ります。また個人の課題は、さらに自分自身も災害について知ることです。スタディーツアーに関わる全ての方々に感謝いたします。



防災授業を見学



メンバーと一緒に鶴を折る



文化紹介では習字を説明



習字「愛」



ホストファミリーとお庭にて



ラジオ局でのインタビュー

いのちの教育

団長 京都府立嵯峨野高等学校 教諭 中井 正典

今回のバヌアツ・スタディーツアーで一番心に残っているのは、3つの小学校で経験した「防災・減災教育」である。日赤の支援で始まった「防災・減災教育」の歴史は、ここ数年のことに過ぎない。

Sea Side Community Presbyterian School では、小学校低学年の生徒16人を対象とした40代の女性教師の防災・減災教育授業を参観した。子供たちは冬休みに入ったところにも関わらず、私たちのために登校してくれたそうだ。授業はすべて英語である。まず、先生が自然災害を7つ挙げさせると、生徒は口々に「地震・津波・洪水・サイクロン・干ばつ・火山・山崩れ」と正解を出した。次に、地震についての話の中で、緊急用のかご（日本の非常用バッグ）に入れて備えておくものは、「水・食べ物・バッテリー」と確認。その後、地震が発生するメカニズムと津波についてお話しになった。地震が発生したらどうする？という先生の問いに、生徒は、“Drop, Hold, Cover!”と口々にリズムよく返答する。どうやら、机の下に隠れ、机の脚を持ち、頭をカバーするということのようなのだ。地震が来たと仮定し、先生は“Drop, Hold, Cover!”と叫びながら、実際に生徒に机の下にもぐるように指示し、その際の注意事項を話される。最後に、授業のまとめとして、この時間に使用した用語「津波」「応急処置」等が書かれたカード数枚とその言葉の定義が書かれたカードの組み合わせを考えさせた。先生の指導技術は高く、生徒に対する熱い思いを感じ、強い感銘を受けた。

トタン屋根の薄暗い教室の壁には、生徒手作りのポスターや、日赤の支援で作られたビスマラ語（公用語の1つ）で書かれた防災・減災ポスターが掲示されていた。

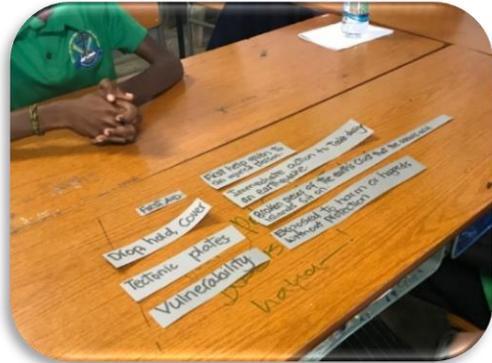
その後、日本の高校生メンバー8人の助けを借りて、日本の「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を使って、防災・減災授業を私が英語で行った。この教材は現地でも評判が良く、バヌアツ版が作成され、活用されることを願ってやまない。

また、別の小学校で津波が発生した際の避難訓練にも参加した。高台がないため、津波サイレンが鳴ると、2キロ先の避難スペースまで未舗装の道をペラペラのサンダルを履いた小さな子供たちが一斉に走り出すのである。この避難には多くの課題があるように思えた。

日本と違い、発展途上国においては、教育が子供たちのいのちを救う場になっていることを実感する。しかし、現実にはバヌアツでは15%の子供が未就学で、いのちの教育を受けていない状況がある。



防災・減災授業を英語で行った



手作りの教材で防災を学ぶ



ビスラマ語の防災教材



ユースボランティアが作った防災教材



避難訓練の全体説明を行う



ホストファミリーと握手を交わす

心豊かな南国の島国“バヌアツ”に魅せられて

富山県 高岡向陵高等学校 養護教諭 浦上 真由美

今回 JRC のご縁で、1 円玉募金の支援国である、南太平洋に浮かぶ島国バヌアツへ、日本から選抜された高校生 8 名、関係者・指導者 4 名の計 12 名で、青少年赤十字海外派遣事業に参加させて頂きました。

派遣先で知っているのは、アフリカ諸国・東南アジア等。聞いたこともない国名を派遣先と聞かされた時、南国のリゾート地の印象を持っていたバヌアツは、「赤十字が人道支援する国は、生命の危機があり不自由な思いをしている国」に該当するのかが信じられませんでした。しかし、この国は、国連の評価では、「最貧国」の一つであり、「世界一幸せな国」(2006 年英国シンクタンクより)としても上位にランキングしている国でもありました。この矛盾した評価が気になり、この派遣先にとっても興味を感じました。

団長の中井正典先生は、渡航経験の少ない高校生たちに「国際交流は楽しいもの。超好奇心・超積極的でいきましょう！」と常に参加した高校生に声をかけ、不安を取り除くように、気配りをしておられました。また、日赤本社の宮崎さん、松原さんは、常に参加者の安全・健康管理に注意を払って下さり、誰も体調不良を訴えることなく、全日程 8 日間を充実したスタディーツアーにして頂きました。

「最貧国」の一つであり、「世界一幸せな国」バヌアツ。この事が気になったまま、首都ポートピラからホームステイ先のフィリップさんのお宅へ。急なホームステイ先の変更でメラ村では珍しい電気、ガス、テレビ、冷蔵庫のある裕福なお宅にお世話になりました。生きていくために必要な水は、家の外のタンクに雨水を溜め、ろ過して飲み水にしていました。その他の日赤スタッフは、電気やガスもない木の家で「ウルルン滞在記」のように外で火を焚き食事するキャンプのような生活をしておられました。フィリップさんはバヌアツ赤十字社に勤め、ホテルの掃除婦として働いている奥さんと大学生から 3 才までの子供たち 4 人と父母の合計 8 人家族で暮らしていました。家には親戚の子ども達がよく出入りし、常に十数人がいました。7000 人の住民がいるメレ村のフィリップさんに手紙を出す際は、住所はなく「メレ村・名前」と書くだけで、どこに住んでいるか分かるそうです。

私は当初、バヌアツと日本の違い(バヌアツの不便さ、日本のよさ)ばかり目につきましたが、慣れてくると共通点にも気づくようになりました。例えば、人を想う事、寄り添う事、困っている人を助けたいと思う気持ちは人間みんな一緒なのだ。ホームステイ先の奥さんとは、ゲームばかりしているわが子らについて愚痴を言ったり、それぞれの子供の夢(バ

ヌアツ：コック、パイロット。日本：オリンピック選手、家にいて稼げる仕事がしたい)を応援していこうと語り合うことも出来ました。どこの国の親も子供に対する想いや期待は同じだという事に気づき嬉しくなりました。

この派遣事業で、支援することの基本や防災教育の重要性“教育こそが生命を救うことに繋がる”ことを身をもって学びました。子育てや養護教諭として、日頃の保健室での執務にも共通することが多い私に、支援の仕方を再認識させて頂く機会になりました。

バヌアツは確かに物質的・経済的には恵まれてはいないかもしれませんが、心豊かな日々が幸福感一杯なのかも知れません。偶然ですが、私の誕生日は7月30日。実はバヌアツがフランスから独立した日と同じ日でした。今回の派遣が全く偶然だとしても、とても近いものを感じました。これも何かの縁。日本人にとっては僅か1円かも知れませんが、それによってどこかの誰かが幸せになれると信じて、今後も協力したいと思います。スタディーツアーに参加した生徒諸君には、是非国内外の JRC メンバーと繋がることを続けていってほしいと希望します。



乗継先で防災授業の予習



ホストファミリーと



ラジオ局でのインタビュー



最終日にはワークショップも

しあわせ とは

日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
青少年・ボランティア課 青少年赤十字係長 宮崎 友紀子

世界でもっとも自然災害に対して脆弱な国の1つであるバヌアツの人生満足度ランキングは1位。一方、日本は95位※にランクしてる。そんなバヌアツ人にとって、防災教育とは何か、この目で確かめることができた。

今まで、津波など経験したことも無いバヌアツの学校の先生は、「災害に対する知識が無いから、危険に身をさらされた時はなすがままだった。事前に備えること、行動することを学んだ」と支援の成果を語った。また、バヌアツの子ども達は、「怖い」災害にどのように向き合うか、自分のいのちを守ることを日ごろから考えるようになっていた。

災害に対する意識改革や行動変容をもたらした本事業の重みが、子ども達の笑顔を通して伝わった。また、日本の教材「ぼうさいまちがいさがし」を使い行なった防災授業がとても人気で、別れ際の子ども達が「きけんはっけん！」と口々に連呼していたことが印象的だった。昨年完成させたこの教材が「海を越えて子ども達のいのちを救っている」ことへの喜びを感じた。

バヌアツの防災事業は、開始当初からバヌアツ赤十字社が国や教育省、多くの学校と協力しながら丁寧に進めてきたからこそ、ここまでの成果が出ているのだと思った。また、熱心な学校の先生や防災普及活動を積極的に行なう大学生のボランティアが子ども達に与える影響力は大きいと感じた。

熱心に活動するメレ村出身のボランティアさんが調整したホームステイでの発見もあった。家族や親戚などが近くで生活しており、誰もが顔と名前を知っているような密接な関係であった。子どもが多く、常にどこからか元気な声が聞こえてくる。時代劇で見る昔の日本のようだと感じた。ホストマザーは「サイクロンバムが過ぎ去った翌日に見た光景は今でも忘れられない。家が潰れていて、家具などは濡れ使い物にならなかった。何もかも最初からやりなおした」と当時の厳しい様子を語った。

帰国後、「しあわせ」について改めて考え続けている。短期間の滞在ではあったが、そこに笑顔があり、想いが通じ合うと言葉では表現できない程の幸せを感じた。今、私は、いのちを救うことのできる事業に携わっている。今日も、健康で仕事に打ち込むことができる環境や人々に感謝したい。

※2006年英国シンクタンクの調査「人生への満足度×平均寿命÷地球環境への負荷度」



ホストファミリーと



ラジオ局で生放送に出演



早く起きた朝は近所の子どもと庭で縄跳び



活動を普及するユースボランティア



ペットの豚とホストファザー



朝食はパンやヨーグルトが中心

善意が形になるまで

日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
青少年・ボランティア課 主事 松原 昌平

青少年・ボランティア課では海外支援事業としてネパールとバヌアツを支援している。それぞれ水と衛生、防災教育についての支援である。今回訪れたバヌアツでは、支援前、体系的な防災教育がなかった。日赤からの支援を受けたバヌアツ赤十字社は国内の小学校、教育訓練省などに働きかけ、3年目の今年には情報資材を活用した授業の展開やユースによる活動の活性化など、防災教育を確立させつつあることが今回の訪問で改めて明らかになった。当然、成果だけではなく課題も浮き彫りになった。国との協働には時間がかかること、言語や島が多数存在することから浸透させるにはさらに費用がかかることなどである。これらの課題については、慎重かつ総合的な判断をもとに、解決していく必要がある。

恥ずかしながら、海外の学校に行く事自体、私は今回が初めてであった。海外の学校の先生と話すことも、海外の学校にいる子どもと話すことも初めての体験だったのだが、私は言葉の違いはあれど、それ以外の違いをほとんど感じなかった。特に、先生方の「子どもたちのために学びたい、もっと教えてほしい」というまっすぐな熱意には心を打たれた。支援があり防災教育が浸透し、救える命が守られている。バヌアツ赤十字社のたゆまぬ努力や、子どもたちのために必死で学ぼうとする先生方の熱意がなければこれらはなしえない。

私は今回、遠く離れた国のひとりの善意が、形になって子どもたちの命を救う場面を目撃した。1円だけでも、と募金をしてくださった、その善意が遠く離れたバヌアツの赤十字社を動かし、学校を動かし、国をも動かそうとしている。たった数十分の授業であったが、この防災教育はバヌアツに住む人の命を守っている。そう確信をした。

青少年赤十字に携わり2年目になるタイミングでこのような貴重な経験をさせていただいたからには、自分だけでなく、赤十字運動の財産とするべく、青少年赤十字活動をさらに推し進めていきたい。

さらに、「幸せとは何か」という視点についても触れておきたい。バヌアツは日本よりも人生充実度が高いとの指標が出ている。電気も水道も、経済力も大きな差があるが、それでもバヌアツの人は自分の人生について満足している人が多い。あくまで量的なデータではあるが、人間の幸せはいったいどこにあるのだろうか。そして、もし途上国の人が幸せだと答えたのであれば、支援は必要ないのだろうか。答えの無い間かもしれないが、バヌアツへの訪問が残してくれた大きな問いとして、大事に向き合っていきたい。



ホームステイのお家の前にて



バヌアツ赤十字社の事務総長より



世界文化遺産の砂絵を見学



みんなで新聞記事をチェック



お昼休みに日本の歌を披露



バヌアツ赤十字社の救護倉庫



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○テーマ

1 円玉募金の具体的な用途を知ってもらい、ボランティアの活動を積極的に行なってもらう

WHAT パワーポイントを使い、1円玉募金によって実際に行われているバヌアツの活動について発表する。また、郡山高校内で発行される編集本に1円玉募金に関する情報を含めたバヌアツツアーの一連の活動内容を載せる。

WHEN 発表は今年の10月30日、編集本の発行は来年3月以降

WHERE 発表→福島県立北工業高校でのJRC 県南地区集会
発行→福島県立郡山高校 校内

WHO 活動者→自分
対象者→発表は県南地区集会の参加者、編集本発行は校内生徒と先生方

WHY 自分のメリット ○ツアーの活動を通して何を体験したかを整理できる。
○対象者の意見を聞くことで、新たな発見を見つけることができる。
相手のメリット ○1円玉募金の具体的な流れについて知ることができる。
○バヌアツの文化や生活を知ることができ、異文化理解の一環につながる。

HOW 発表→1円玉募金の流れを含めたバヌアツツアーでの活動内容をまとめ、今後の活動（トレーニングセンターなど）も伝える。発表後に対象者に感想を書いてもらう。

編集本の発行→今年中に原稿をまとめて、2020年3月以降に発行してもらう

実践報告

No. 1

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○実践したこと

現地での研修で分かった情報（経験したこと、新たに発見したこと等）を対象者に発表する。

WHEN 2019年11月8日

WHERE 清稜山倶楽部（福島県郡山市）

WHO 対象者→福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会秋季総会 参加者

HOW 主にパワーポイントを中心として情報を整理し、ドレスや国旗など
現地で入手したものを交えながら発表。また、バヌアツに関する○×クイズをおこなった。

バヌアツで何を感じ（学び）、何を伝えたのか？

- ・防災ポスターを見たところ、危険度が色分けで表記されていたり、どんな時に何をすればいいのかを優先度をつけて分別したりしている様子から、バヌアツの人々が持つ災害に対する関心の具合が、日本よりも強いように感じた。
- ・学校での避難訓練や海岸沿いの様子を見て、生徒が集合した後にすぐ点呼をとらなかったり、津波や海面上昇の対策（防波堤を置くなど）がされていなかったりすることから、改善できる点がまだあるように思えた。

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点

- ・バヌアツで現在どのような活動がおこなわれているのか説明することができた

反省点

- ・時間の都合上、質疑応答のコーナーを用意できなかった。

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○実践したこと

今回の研修に関する情報（経験したこと、現地で新たに発見したこと等）を対象者に発表する。

WHEN 2019年11月17日

WHERE 郡山駅前ビッグアイ

WHO ビッグアイ科学グループボランティア会員

HOW 主にパワーポイントを中心として情報を整理し、ドレスや国旗など現地で入手したものを交えながら発表。また、バヌアツに関する○×クイズをおこなった。質問は随時受け付けた。

バヌアツで何を感じ（学び）、何を伝えたのか？

- ・水害で崩壊した橋の修復や村にハザードマップを設置するなど、日本赤十字による支援事業が成されているように思った。また、日本赤十字以外の団体からも経済の面でも補助を受けているように感じられた。
- ・バヌアツと日本とで文化や社会制度が異なるため、日本で行われている防災・減災の方法が必ずしもバヌアツで活用できるものではないと考えた。

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点

- ・1時間内に発表をおさめることができた
- ・バヌアツの食事や環境に関する質問に対応できた

反省点

- ・ところどころ曖昧な部分があり、はっきり答えられなかった

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○実践したこと

今回の研修に関する情報（経験したこと、現地で新たに発見したこと等）を対象者に発表する。

WHEN 2019年11月24日

WHERE JICA 二本松

WHO 福島グローバルセミナー2019 自主講座 参加者（8名）

HOW 主にパワーポイントを中心として情報を整理し、ドレスや国旗など
現地で入手したものを交えながら発表。また、バヌアツに関する
○×クイズ（9問）をおこなった。質問は随時受け付けた。

バヌアツで何を感じ（学び）、何を伝えたのか？

- ・災害がどうして起こるのか、被害を最小限に抑えるにはどうすればいいのかを学ぶ機会を与えられていない人たちがいることを知って、学校や仕事場以外でも伝える必要があると感じた。
- ・以前、津波や地震で多くの人や町が一瞬でなくなってしまったということを聞いて、幼少期によく訪れていた岩手の親戚の家が津波で土台だけになってしまったことを思い出し、同様の気持ちを今生きている人たちに感じてほしくないと思った。

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点

- ・JICAの活動に参加することで、より深くバヌアツに関する情報共有ができた

反省点

- ・意見交換が可能な人数にもかかわらず、活発な意見交換ができなかった

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○実践したこと

現地での研修で得た情報（経験したこと、現地で新たに発見したこと等）を対象者に発表する。

WHEN 2019年12月14日

WHERE 福島県国際交流協会

WHO (対象者) ふくしま通訳案内士会12月総会 参加者(6名)

HOW 主にパワーポイントを中心として情報を整理し、ドレスや国旗、ぬいぐるみ、アクセサリなど現地で入手したものを交えながら発表。また、バヌアツに関する
○クイズをおこなった。質問は随時受け付け、アンケートをおこなった。

アンケートの内容→①報告会の感想

②募金の有無および理由

③どのような場面で募金をするのか

Why 報告会で参加者がバヌアツや災害に対してどのような考えを持ったのか、募金の参加の意欲、どんな時に活動に参加してもらえるのかを確認するため。

回答→ ①・小さな島国の災害等への備え、暮らしの実情等を理解することができ、参考になった。
・バヌアツのこと、活動の様子、今後の活動目標など、わかりやすい報告だった。
②(全員) YES→・災害の備え、福祉活動など、税金でまかなえない事業に少しでも役立つようにと考えて募金した。
・日本での災害支援のため
③・会社での募金活動、町内会、駅などでの募金
・災害が起きたときの義援金、赤い羽根共同募金
・募金の趣旨による

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

・現地の学校で避難訓練に参加したりメレ村を回ったりしたこと、避難訓練や日頃のコミュニケーションなど、実際に災害が発生したときにどうするのが適切かを確認できる活動をおこなう重要性を改めて理解した。

- ・砂絵などの独自の文化がある一方で、それらが消滅し始めているということを知って、善悪の区別なく後世に伝えていく必要があると思った。
- ・学校に勤める先生でさえ災害が起きたときにどうしたらいいか分からなかったと聞いたとき、日本で授業を受けたときはそれほど重要視しなかったが、災害のリスクが高い国に住む人が防災・減災、災害が起きる仕組みについて学習するのは自分の身を守る時に必要なものなので被害にあう人を1人でも少なくするためには大切なものだとして改めて実感した。

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など
上手くいった点 ・アンケートの実施によりどういう考えで聞いてもらえたのか確認できた 反省点 ・バヌアツの環境問題（海面上昇など）について明確な回答ができなかった

No. 5

都道府県名 福島県

名前 昆 茉莉花

○実践予定

バヌアツの情勢を伝え、学校でおこなった募金を寄付する。

WHEN 2020年4月16日~23日

WHERE 福島県立郡山高等学校

WHO 実行→JRC委員会

対象者→期間中に校内にいる人

HOW 校内の複数カ所に募金箱とPRポスターを設置する。期間については校内放送で全校生徒および先生方に連絡する。

今回2019年に実行できなかった経緯

- ・プランを立てたのが10月を切り、落ち着いて行える時期に実行できなかった
- ・学校の先生と連絡をとらなかった



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 栃木県

名前 仁平温香

○テーマ

一円玉募金の大切さを伝え一円玉募金を行う

What 真岡女子高校 JRC 部員に一円玉募金によりバヌアツの防災教育等が普及したことを伝え一円玉募金の大切さを感じてもらおう
実際に JRC 部員で一円玉募金を行う

When 11 月上旬 JRC 部員に一円玉募金により防災教育が変化したことを説明する
道の駅ましこに募金活動の依頼をする
11 月 10 日 道の駅ましこで募金活動を行う
11 月 11 日 募金の合計を数え、道の駅に報告をする

Where 道の駅ましこ

Who 真岡女子高校 JRC 部員

Why バヌアツ派遣で一円玉募金により防災教育が普及したことを伝え、一円玉募金を
行い今後の支援に繋げる

○相手のメリット

- バヌアツについて知ることができる。
- 一円玉募金により変化したバヌアツを知ることによって募金活動に対する意識が変わる。
- 一円玉募金の使われ方がわかる。

○自分のメリット

- バヌアツについてまとめ、発表することで学んだことや感じたことを再確認できる。
- 今回のバヌアツ派遣を多くの人に伝えることができる。

How JRC 部員にバヌアツの防災教育が一円玉募金によって変わったこと写真を見せながら説明をする。
一円玉募金によって変わったバヌアツの様子を拡大コピーしてパネルにし、募金活動の時に掲示し、多くの人に見てもらおう。

実践報告

No. 1

都道府県名 栃木県

名前 仁平 温香

○実践したこと

道の駅で1円玉募金をする

WHEN 2019年11月10日（日）

WHERE 道の駅ましこ

WHO（対象者は？） 道の駅に訪れた人

HOW どんな風に？具体的に）道の駅ましこの入口で募金を呼びかけ 募金をしてもらう

バヌアツで何を感じ（学び）、何を伝えたのか？

バヌアツで1円玉募金募金の大切さを感じたため、募金の呼びかけをし協力を求めた

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点

みんなで協力して呼びかけを行うことができた。

台風第19号災害義援金の募金と共同で行い、台風第19号56695円、1円玉募金24467円を集めることができた。

反省点

募金を呼びかける時に、募金の目的について説明できなかったこと。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 埼玉県

名前 荒木 菜那

○テーマ

“バヌアツ共和国”をたくさんの人に知ってもらい、募金に繋げよう

WHAT バヌアツ研修で、実際に見て聞いて肌で感じたことをパワーポイントにまとめる。
作成したパワーポイントを発表する。

WHEN スタディーツアー帰国後～

WHERE 埼玉県立岩槻高等学校 2年 8組教室 / CAI 教室

WHO 活動者：自分

対象者：クラスメイト(40人) / 国際文化交流部(25人)

WHY

○募金をしてもらうために

一円玉募金などの募金をもっとたくさんの方に協力してもらうためには第一に、その国について知ってもらうこと、興味を持ってもらうことが大事だと考える。だからまだ日本人にあまり知られていないバヌアツについて少しでも知ってもらい、今後の支援に繋げる。

○相手のメリット

バヌアツの生活や文化など、暮らしの現状を知ることができる。
他国に興味を持つことができる。

○自分のメリット

パワーポイントの作成、発表において、たくさんの人に自分の経験を伝えることができる。

経験がただの思い出になるのではなく、形として残すことができる。

実践報告

No. 1

都道府県名 埼玉県

名前 荒木 菜那

○実践したこと

文化祭での1円玉募金活動

WHEN

9月6日、7日

WHERE

学校内

WHO (対象者は?)

全校生徒、保護者、先生方

HOW (どんな風に?具体的に)

バヌアツ共和国についての説明ポスターを沢山作り、募金箱を設置した。

国際交流部の部員に手伝ってもらい、自分たちでハンドメイドした小物を販売し、その売上金をバヌアツに一円玉募金をした。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

高校生の自分たちにできること。協力することの大切さ。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

ポスターを作って貼ったのが良かった。

何のために募金をするのか、募金はどう使われるのか、をしっかりと明らかにして、その募金のおかげで沢山の尊い命が救えることを伝えることが出来たと思う。

しかし、無視して去ってしまう人がまだ沢山いたため、次回募金をする時はもっと呼び掛けをしたいと思う。

都道府県名 埼玉県

名前 荒木 菜那

○実践したこと

国際交流部でバヌアツ共和国について発表

WHEN 9月25日

WHERE LL教室

WHO (対象者は?) 国際交流部のメンバー、顧問の先生方

HOW (どんな風に?具体的に)

パワーポイントでたくさんの写真を使い、話のイメージが持てやすいようにした。

国際交流部の部員は全員、青少年赤十字の活動をしているため、この時は赤十字の説明はせずに現地で自分が見たことや感じたこと、思い出などを細かく発表した。

クイズや質疑応答の時間を設けて、より深くバヌアツ共和国について知ってもらえるようにした。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

自分は避難訓練での経験が一番心に残ることが多かったため、その時に感じたことを深く伝えた。

私が現地で取っていたメモに、「あの小学校の子どもたちも、お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんも誰一人として欠けてはならない命なのに、ただひたすら長い平坦な道を走るだけで、速く走れないと死んでしまうその現実が本当に悲しかった。自分はなんにもできなくてすごく無能だと心が折れそうになったけど、あの村の人々の幸せそうな笑顔が無くなると考えたらここで諦めたらいけないと思った。」とあり、防災教育がどれほど大切なものなのかを、現地での話しを交えて伝えた。また、尊い命を守るために、自分たちには何が出来るのかを話し合い、募金活動への参加をお願いした。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

部活動での発表は初めてで、部員の仲が良いのもあり、真剣に聞いてもらえるのか少し不安でした。話の初めにバヌアツ共和国っていう国を知っている人!と質問をしたところ、誰一人として知っている人はいませんでしたが、バヌアツに興味を持ってくれた部員が多く、みんなとても真剣に聞いてくれて発表の後には沢山の質問もしてくれました。

自分の反省点としては、話している途中に現地で感じた感情が強く戻ってきて、泣きながら話しをしてしまったため、伝えようと思っていたことが上手く言葉が回らなくて伝えきれなかったことです。次回は伝えたいことを全て伝えられるように、資料などを準備して発表をしたいです。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 東京都

名前 富澤 二葉

○テーマ

「バヌアツ」について知ってもらい、未来へと繋げる

WHAT 東京都内で地域向けのイベントを開催。
「1円玉募金」を順天中学高等学校の校内に設置。
東京都青少年赤十字メンバー連絡協議会内での報告会に参加し発表。

WHEN 10月、11月の祝日、冬休み中
今年中
11月9日または1月25日

WHERE 北とぴあ(予定)
順天中学高等学校校内
東京都支部

WHY

文化祭で学校の生徒、生徒の家族にはプレゼンテーションをしてバヌアツについて知ってもらったが、東京都の学校周辺地域を対象にもっと多くの方に知ってもらえる機会を作るため。
バヌアツへの関心を高め、支援や募金をする人を増やすため。また、そのような活動を広めるため。
青少年赤十字メンバーを対象にバヌアツでの活動報告をすることで、より多くの人に支援の輪を広げるため。

自分たちのメリット

バヌアツで得た知識や経験を多くの方に発信し、バヌアツという国を知ってもらって支援を促すことができる。

JRCの活動を知ってもらえる。

相手側のメリット

新たな災害に対する知識を得ることができる。
バヌアツへの支援を身近に手軽に行うことができる。

実践報告

No. 1

都道府県名 東京都

名前 富澤 二葉

○実践したこと

順天中学校、高等学校の文化祭で、生徒とその保護者を対象としてバヌアツについて発表

WHEN 9月22日、23日

WHERE 順天中学高等学校の理軒館三階のラボ室

WHO (対象者は?) 順天生とその保護者

HOW (どんな風に?具体的に)

パワーポイントをテレビ画面に表示し、それをもとに青少年赤十字のことやバヌアツでの経験を発表し、一円玉募金をはじめとする募金への協力を募った。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

日本からも支援はしているが、バヌアツに住む人々が安全に暮らすには防災教育の発展や、防災システムの強化などがまだまだ必要で、それを支える募金の大切さを改めて感じた。また、バヌアツには尊重されるべき独自の暮らしがあり、それを守りながらバヌアツに住む人々の安全も守る支援の形が必要であるということを実感し、それを伝えた。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

そこまで緊張せず、発表というよりは聴いてくれている人に「伝える」ことを大切にしてみました。終わった後に「バヌアツってこれを聴くまで知らなかったけど、私も何かできないかなって富澤さんの発表聴いて思えました」と言ってくれた人がいて、やってよかったなと思いました。

また、聴いてくれた人は大人も多く、質疑応答の時間ではするどい質問もあり、話をより深められたのでよかったと思います。

都道府県名 東京都

名前 富澤 二葉

○実践したこと

<p>順天中学高等学校の学習成果発表会で全校生徒と先生に向けて赤十字についてとバヌアツについてを発表</p>
--

WHEN 学習成果発表会(10月23日)

WHERE 北とぴあ 桜ホール

WHO (対象者は?) 順天中学高等学校の全校生徒と先生

HOW (どんな風に?具体的に)

ステージのスクリーンにパワーポイントを映して、それをもとに発表。

プログラムに海外留学についての時間があり、そこでバヌアツについても発表した。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

日本からも支援はしているが、バヌアツに住む人々が安全に暮らすには防災教育の発展や、防災システムの強化などがまだまだ必要で、それを支える募金の大切さを改めて感じた。また、バヌアツには尊重されるべき独自の暮らしがあり、それを守りながらバヌアツに住む人々の安全も守る支援の形が必要であるということを実感し、それを伝えた。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

<p>文化祭での発表で使ったパワーポイントを少し変えて使いました。対象者が少人数から大人数に変わっても私の言いたいことが伝わるように話し方も工夫しました。</p>

<p>緊張で少し早口になってしまったことが反省点です。</p>

都道府県名 東京都

名前 富澤 二葉

○実践したこと

王子小学校の JRC 委員会の子供たちにバナアツでのことを伝える

WHEN 10月31日

WHERE 王子小学校

WHO (対象者は?) 王子小学校の JRC 委員会の子供たち

HOW (どんな風に?具体的に)

東京都支部の職員さん、本社の松原さんと一緒にパワーポイントを使ってバナアツについて発表した。

子供たちに向けてのものだったので、途中でクイズを入れたり、コール アンド レスポンスを特に意識して、子供たちが楽しんで聞いていられるようにした。

バナアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

日本からも支援はしているが、バナアツに住む人々が安全に暮らすには防災教育の発展や、防災システムの強化などがまだまだ必要で、それを支える募金の大切さを改めて感じた。また、バナアツには尊重されるべき独自の暮らしがあり、それを守りながらバナアツに住む人々の安全も守る支援の形が必要であるということを実感し、それを伝えた。

また、小学校では一円玉募金の活動も多くしているようなので、「みんなが集めたお金はこう使われているんだよ」といことを中心に伝えた。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

子供たちの反応を気にしすぎて、予定していた時間をオーバーしてしまったことが反省点です。子供たちは放課後わざわざ残って私の話を聞いてくれたので悪いことをしてしまいました。

でも、クイズや写真を多めに入れたのは良かった点だと思います。おかげで子供たちが楽しそうにしていたので私も楽しくできました。

都道府県名 東京都

名前 富澤 二葉

○実践したこと

東京私学高等学校弁論大会に出場し、バナアツでのことを弁論する。

WHEN 11月23日

WHERE 赤羽会館

WHO (対象者は?) 他の弁士、審査員、観覧席の方

HOW (どんな風に?具体的に)

バナアツでの経験を文章にし、暗記して、東京私学弁論大会にて弁論した。

《結果》

優秀賞第二席受賞

朝日新聞記載

バナアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

日本からも支援はしているが、バナアツに住む人々が安全に暮らすには防災教育の発展や、防災システムの強化などがまだまだ必要で、それを支える募金の大切さを改めて感じた。また、バナアツには尊重されるべき独自の暮らしがあり、それを守りながらバナアツに住む人々の安全も守る支援の形が必要であるということを実感し、それを伝えた。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

自分が言いたいことを何度も書き直して丁寧に文章化することで改めてバナアツで学んだことを復習することができました。
--

原稿を仕上げたのはワークショップに実際に取り掛かり始める前だったので、「この経験からこういうことをした」という実践報告が弁論内でできなかったのは残念に思いました。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 愛知県 _____

名前 山本昂輝 _____

○テーマ

バヌアツ共和国を知ってもらい1円玉募金を広める

WHAT メンバー連絡会でパワーポイントによってバヌアツの現状を知ってもらおう
1円玉募金のやる意義伝える

WHEN 2019年 11月9日

WHERE 日本赤十字社愛知県支部会議室

WHO 活動者 自分

対象者 愛知 JRC メンバー連絡会参加者

WHY 【自分のメリット】

スタディーツアーのことを伝えられる
発表の意見を聞け今後の発表の改善点が分かる

【相手のメリット】

1円玉募金の知れる 国際的な問題を知る機会になる
日本とは違う文化を知れる

実践報告

都道府県名 愛知県

名前 山本 昂輝

○実践したこと

学校校内での1円玉募金の実施

WHEN 2019/12/10

WHERE 愛知県南陽高校校内

WHO (対象者) 先生、生徒

HOW 各教室を回り募金を募る

バヌアツで何を感じ何を学んで何を伝えたのか？

防災対策の不十分さ、防災意識の低さなどを愛知県支部や学校で伝える

バヌアツの防災対策や防災教育の現状、日赤がおこなっている

バヌアツへの支援活動などを発表し、募金の大切さを伝えました

振り返り (自己評価)：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

良点：募金に関心を持ってもらえた。

反省：時間があまりなかったのもう少し時間配分を取るべきだった。

改良点：時間配分を考えて募金活動をする。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 大阪府

名前 雨宮 珠音

○テーマ

一人でも多くの人にバヌアツ共和国について知ってもらい、1円玉募金を普及させる

WHAT ①バヌアツについて理解を深めてもらうためバヌアツの現状を校内に掲示する
②バヌアツでの活動報告をする
③メディアを使ってバヌアツの認知度を上げる

WHEN ①9月中に作り10月には掲示する
②9月22日は大阪府支部で 10月1日は校内で報告会を行う予定
③今年中

WHERE ①大阪国際滝井高校
②高校と大阪府支部で

WHO 活動者 自分
対象者 全校生（500人ほど）
大阪府の JRC メンバー

WHY 自分のメリット ①自分の経験を多くの人に伝えることができる
②興味を持っているひとを見つけることができる
③支援拡大に繋げられる

相手のメリット ①バヌアツ共和国について知れる
②国際理解・親善について理解が深まり視野が広がる
③募金の使われ方を知ることができる

HOW バヌアツが1円玉募金により良い方向に変わっていていることを報告会やメディアを使って広め1円玉募金を普及させる。

報告会で興味を持ってくれた人たちと一緒に1円玉募金を行う

実践報告

No. 1

都道府県名 大阪府

名前 雨宮 珠音

○実践したこと

大阪府支部でバヌアツ報告会

WHEN

9月15日

WHERE

大阪府支部

WHO (対象者は?)

JRC メンバー

HOW (どんな風に?具体的に)

パワーポイントを使ってバヌアツ共和国の位置、1円玉募金で何ができるのか、バヌアツの現状などを説明した。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

学校に行けない子がまだまだたくさんいること、防災教育が十分に行き届いていないこと、村の人たちはいつ壊れてもおかしくない家に住んでいることなど、日本にいたら知ることのできないことをたくさん学べた。またそれら全てはお金がないことが一番の原因だと知ることができた。

日本からの支援がバヌアツの役に立っていることも知ることができ、大阪府支部の JRC メンバーに伝えた。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点→ パワーポイントを使い写真をたくさん見てもらうことで、バヌアツに興味を持ってもらえた点。

質問時間をつくることでバヌアツのことを深く知ってもらえた点

反省→ 話したいことをうまくまとめられず少しぐだぐだになってしまった。

都道府県名 大阪府名前 雨宮 珠音

○実践したこと

1 円玉募金活動

WHEN

12/5～12/13

WHERE

学校内

WHO (対象者は?)

全校生徒

HOW (どんな風に?具体的に)

1 円玉募金の内容、大切さを伝え校内に 2 つ募金箱を設置した

バヌアツで何を感じ (学び)、何を伝えたのか?

・小さなことでも行動する事で誰かの役に立つことができ、命を救えるということを学びました。

振り返り (自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

上手くいった点→ 1 人で全てをやろうとせず周りの人に協力を求めることでスムーズにことを進めることができた。

反省→ 1 円玉募金の説明が不足し、1 円しか入れたらダメと思ってる人がたくさんいたこと。次にやるときはもう少し説明を詳しくしようと思う。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 兵庫県

名前 溝口和愛

○テーマ

**私達にできることはなにか。
～気付き、考え、実行する～**

1. 青少年赤十字第四ブロック第一回ギャザリング

When 10月13日 13:00～17:00

Where 日本赤十字社大阪府支部

Who 第四ブロック(近畿)の青少年赤十字メンバー

Why

- ・ 第四ブロックメンバーの交流
- ・ ネパール・バヌアツ(一円玉募金の支援先)について知ってもらう
- ・ 態度目標である「気付き、考え、実行する」の「実行する」まで行う
- ・ 募金の必要性について再認識してもらう

<自分と参加者のメリット>

- ・ 同じ志を持ったメンバーと出会える
- ・ 支援先の状況を伝え、知ることが出来る。
- ・ 毎回WSで問題視される『現地に行かなければわからない』『実行までできていない』を解決出来る
- ・ 募金の必要性を再認識することで、募金活動への意欲が持てる
- ・ 実践する事で、活動の幅が広がる

2. 兵庫県支部第二学期例会

When 11月10日

Where 日本赤十字社兵庫県支部

Who 兵庫県青少年赤十字メンバー

3. IAC 交流会

When 2020年3月までに

Where 学校 or 近くの施設

Who 兵庫県のインターアクター・ローターアクター

- Why
- ・「赤十字」について知ってもらうため
 - ・「一元玉募金」について知ってもらうため
 - ・インターアクターに少しでも『赤十字』に興味を持ってもらうため
 - ・支援先の状況を知ってもらうため



実践報告

No. 1

都道府県名 兵庫県

名前 溝口 和愛

○実践したこと

青少年赤十字ギャザリング(近畿を対象とした)

WHEN 2019/10/13

WHERE 日本赤十字社大阪府支部

WHO (対象者は?) 近畿の青少年赤十字メンバー50人

HOW (どんな風に?具体的に)

①三人(自分・大阪のメンバー・奈良のメンバー)で今回のイベントの大枠を決める(9月～)

②役割をそれぞれ分担(自分:資料作り、大阪のメンバー:場所などのアポ、奈良のメンバー:大まかな流れづくり)(9月～)

③当日:アイスブレイキング、報告会、ワークショップ、発表

ワークショップ:「私たちにできることは何か」(対象の定義はなし)

講評で赤十字の方と、出た案の中から実現可能な活動を厳選した。

2020年の一年間でその活動を全員で行い、実績報告会を開く予定。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

・最初は笑顔で暮らし、幸せで溢れている印象で、スタディーツアー中もあまり不便を感じなかった。しかし、避難訓練に参加した時に、防災の面に関しては穴だらけで、日本よりリスクの高い国であると実感した。

・バヌアツは、つい最近まで防災教育が全くなく、今のような災害対策や学べる教材が普及されるようになったのは、日本赤十字社が支援し始めたからだとなり、**募金活動の大切さ**を学んだ。

・メレ村では、村全体で親交があり、夕飯も複数の家庭と一緒に食べていた。災害時でも周囲で呼びかけあい助け合ったと聞き、**人のつながり**は大事だと感じた。日本でも、人のつ

なかりは災害時に必要になると思う。

- ・バヌアツの人々は皆温厚で優しく、いつも笑顔だった。「世界一幸せな国」であり、私も滞在中に沢山の人々の笑顔を見ることができて幸せになれた。そんな中、バヌアツは「世界一災害リスクの高い国」と言われており、災害時にはこの笑顔は消え、支援してこの国を変えていかなければ多くの人が亡くなってしまい、もう二度と笑顔を見ることはできない、という深刻な状況を知った。

振り返り（自己評価）：上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

【成果と今後の取り組み】

ボランティアや国際交流に取り組んでいるメンバーを集め、「**Love the worldz**」というチームを立ち上げた。「学生の学生による世界のためのボランティアを」というモットーで、Instagram や Twitter で活動を広めたり、新しい企画を考えたりしています。

そこで、ギャザリングで企画した活動を実行し、広めようと考えている。

それ以外にも、バヌアツの事を広めるために学校訪問を行ったり、募金活動を活発に行おうと考えている。

良点：アンケートを取り、今回のプレゼンでのバヌアツへの理解度を図った。バヌアツという国について知ってもらえた。スタディーツアーに行っていない他の近畿のメンバーにも、伝えることが出来、交流が深まった。今自分たちにできる事を考え、計画することが出来た。

反省：時間内に発表内容をまとめることが出来なかった。

改善点：時間配分を考える。二か月前から考え始め、企画メンバーでもっと話し合いの場を増やす。

○実践したこと

兵庫県青少年赤十字第二学期例会

WHEN 2019/11/10

WHERE 日本赤十字社兵庫県支部

WHO (対象者は?) 兵庫県の青少年赤十字メンバー40人

HOW (どんな風に?具体的に)

バヌアツスタディーツアーでの活動・なぜバヌアツが対象国として選ばれたのかを中心に30分間プレゼンをした。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

- ・最初は笑顔で暮らし、幸せで溢れている印象で、スタディーツアー中もあまり不便を感じなかった。しかし、避難訓練に参加した時に、防災の面に関しては穴だらけで、日本よりリスクの高い国であると実感した。
- ・バヌアツは、つい最近まで防災教育が全くなく、今のような災害対策や学べる教材が普及されるようになったのは、日本赤十字社が支援し始めたからだを知り、募金活動の大切さを学んだ。
- ・メレ村では、村全体で親交があり、夕飯も複数の家庭と一緒に食べていた。災害時でも周囲で呼びかけあい助け合ったと聞き、人のつながりは大事だと感じた。日本でも、人のつながりは災害時に必要になると思う。
- ・バヌアツの人々は皆温厚で優しく、いつも笑顔だった。「世界一幸せな国」であり、私も滞在中に沢山の人の笑顔を見ることができて幸せになれた。そんな中、バヌアツは「世界一災害リスクの高い国」と言われており、災害時にはこの笑顔は消え、支援してこの国を変えていかなければ多くの人が亡くなってしまい、もう二度と笑顔を見ることはできない、という深刻な状況を知った。

振り返り(自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など
--

良点: バヌアツという国について知ってもらえる事が出来た。

反省: プレゼンの時間内に発表内容をまとめる事が出来なかった。

改良点: プレゼンの時間を考え、必ず伝えなければならないことを中心として枠組みを作る。観客を退屈させないように、人を惹きつける内容にする。



ワークショップ（活動計画作成）

都道府県名 長崎県

名前 宮田 杏

○テーマ

一円玉募金のがどのように使われているかを伝え、考えてもらう
もし興味を持ってもらえたら、1円玉募金をしないか提案する
実際に募金を行う

WHAT 私が見た現地での一円玉募金の使われ方をパワーポイントにまとめる

WHEN 9月に教室でプレゼン済み 10月のインターアクトでプレゼン予定
うまくいけば12月までに募金活動

WHERE 長崎県私立鎮西学院高校 2年G組 教室

WHO 活動者 自分 対象者 2年G組のみんな インターアクト部

WHY 【相手のメリット】

- ・現地でのリアルな声や現状を知ることができる
- ・募金に対する意識が変わるかもしれない
- ・国際問題に興味を持ち、自分のできることを考えることができる

【自分のメリット】

- ・パワーポイント形式にまとめることによって、自分の考えや感情を再確認できる
- ・終えた後、友の意見を聞くことによって自分の伝え方を変え、より良いものができる

HOW 私が見たものをパワーポイントにまとめ、募金の使われ方を伝える。その後クラスメイトの意見を聞き、自分の考えをより深め、伝え方をよりよくする工夫をする

インターアクト部でパワーポイントを行なった後、1円玉募金をしないか提案してみる
賛同者が少しでもいたらその人達と1円玉募金を行う

実践報告

No. 1

都道府県名 長崎県

名前 宮田 杏

○実践したこと

災害義援金募金

WHEN 2019 年 10 月

WHERE 学校の食堂前

WHO (対象者は?) 全校生徒、先生方

HOW (どんな風に?具体的に)

長崎支部の方から預かった募金箱を持ち、昼休み 15 分ほどを使って台風 19 号のための募金活動を行いました。食堂は昼休み人が多くなるので邪魔にならない程度に自動販売機の隣で行いました。募金にご協力してくださったらお礼の言葉を言うのを忘れないように心がけました。

バナアツで何を感じ (学び)、何を伝えたのか?

バナアツでは自分たちにできることがあるということがわかったので、その気持ちをバナアツだけでなく国内協力にも通じるものがあると思いました。国外に目が行きがちですが、国内で困っている方々を助け合おうとしないのでは、バナアツにいった意味がないと思います。自分に対しても自分たちにできることがあるということを確認するために募金活動を行い、またその活動を見た生徒にも同じ思いを見てくれたら嬉しいなと思いました。自分たちにできることがあるということを 1 番に伝えたかったです。

振り返り (自己評価): 上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

バナアツでの感じたことを踏まえ、学校で初めて募金活動を行いました。生徒が多くいる食堂で行いましたが、予想以上に多くの生徒の皆さんが募金に協力してくれました。どんどん重くなっていく募金箱を持ちながら、国内協力の暖かさを感じました。昼休みに食堂で行ったことは自動販売機で使ったお金のお釣りを募金してくれたりなど、うまくいったと感じます。長崎支社の方が学校に来てくださり、簡単な受け取りセレモニーも行うことができました。反省点として、1 週間場所を変えずに行ったので、少し変えてもよかったかなと思いました。

都道府県名 長崎県

名前 宮田 杏

○実践したこと

バヌアツの派遣報告

WHEN 10月

WHERE 教室

WHO (対象者は?) 留学生を含むクラスメイト、担任の先生

HOW (どんな風に?具体的に) 日本赤十字社が何かからを説明し、留学生にも伝わるように英語でパワーポイントを使い、発表した。

防災教育の大切さを押し付けないように最初は楽しかった思い出を発表し、そのあとに自分の思う自分たちにできることを述べた。

バヌアツで何を感じ(学び)、何を伝えたのか?

1番クラスメイトに伝えたかったことは、自分たちにできることがあるということと、実際に自分がバヌアツで見て感じたことだったので、それを押し付けないようにしっかり伝えました。

振り返り(自己評価):上手くいった点、もっと工夫した方が良かった点・反省など

国際色豊かなクラスメイトなので、英語での発表に臨みました。結果、外国籍のクラスメイトからの感想も聞けたのでやってよかったと思います。バヌアツに近い国であるフィジー人の友達からは、バヌアツはすごくいい国だけど確かに災害に対する考え方は変えていかなければいけないよねという言葉をもらいました。しかし、やはり日本人の生徒には英語で十分に伝えれたという手応えがありませんでした。英語だけではなく、日本語も少し織り交ぜながらすればよかったという反省点がありました。

おわりに

今回はバヌアツのスタディーツアーを通じた青少年赤十字活動の紹介でした。全国で行われている活動の根幹には、今回スタディーツアー参加者が体現してくれた「気づき、考え、実行する」という態度目標があります。この態度目標を心に留めておくことは、青少年赤十字活動に限らずとても重要なことです。学校生活や日々の暮らしのなかで、何かに気づいたときに、何が最善か考え、それを実行すること。特に実行することは、少し勇気がいりますが、これらは自分たちの暮らしや社会をどうしたら心地よくできるのかを考える下地であり、最適な方法であるといえます。

日本とバヌアツ、環境の違いはあれど、生きていくうえでの障壁があるという点で変わりはありません。バヌアツのためにやるべきことを考えて実行することも、クラスメイトや、友達のために何かをすることも、本質は同じです。その本質こそ、赤十字の存在意義でもある「人道の実現」であり、「やさしさ」であり、「思いやり」ではないでしょうか。

「気づき、考え、実行する」ことは、人道の実現に直結しています。今日も全国 340 万人の青少年赤十字メンバーは、自分が気づいた誰かの生きづらさや課題を、どうしたらより苦しみを少なくできるかを考え、少しの勇気をもって実行します。

日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
青少年・ボランティア課





令和元年度青少年赤十字海外支援事業 バヌアツスタディーツアー報告書

発行：令和2年3月

発行元：日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部
ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課

〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3

TEL：03-3437-7083 FAX：03-3432-5507

Email：rc-junior@jrc.or.jp URL：http://www.jrc.or.jp

※ こちらのページからも本報告書をダウンロードが可能です。

